社会的インパクト評価の推進に向けて（概要）

～社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について～

平成28年３月
社会的インパクト評価検討
ワーキング･グループ報告書

１．なぜ必要なのか

(1) 国際的な潮流：資金の出し手の姿勢が変化（より成果を求める流れ）
(2) 日本の現状：社会的課題が多様化・複雑化。意欲のあるあらゆる主体が知恵や技術を最大限発揮し、成長できる環境が必要
(3) 社会的インパクト評価は社会的課題の解決力を高める礎
・評価を通じ事業・活動の内容や方法を不断に見直し、組織運営の改善を図ることで組織が成長。
・また、説明責任につなげていくことで資金、人材が公益活動に参画し、新たな手法を生みだすイノベーションをもたらす。

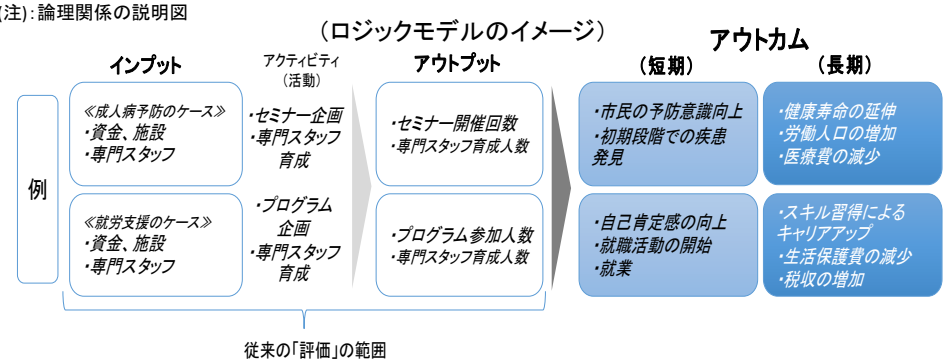
２．社会的インパクト評価とは

社会的インパクト：短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「アウトカム(効果)」
社会的ｲﾝﾊﾟｸﾄ評価：社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

（社会的インパクト評価の特徴）
・アウトプット評価に止まらず、その先のアウトカムを評価
・「ロジックモデル(注)」を活用し「インプット」、「アウトプット」から「アウトカム」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにする。
⇒事業計画の実効性や事業成果に関する**説明責任**へ（⇒更なる資源獲得）
⇒評価を通じた課題等の発見が、事業や組織運営の改善へ（**学び・改善**）

(注)：論理関係の説明図

（ロジックモデルのイメージ）

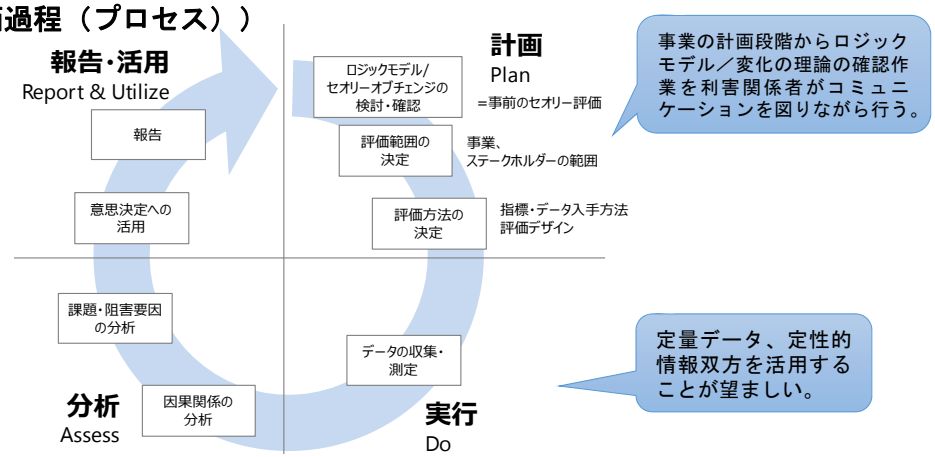


（評価の意義・効果の例）
・事　業　者：人材・資金の獲得、事業改善・組織管理・運営の向上　等
・資金仲介者：資金の有効性の根拠、事業・活動の進捗・業績把握　等
・資金提供者：支援先の組織、事業・活動内容、実現可能性の判断材料　等

（評価の原則（例））
・重要性、比例性、比較可能性、利害関係者の参加・協働、透明性

３．どのように行うのか（評価の方法）

（評価過程（プロセス））



（分析手法の例）

	概要
事前･事後比較	事前・事後の指標値を比較
時系列	事業実施前と後のトレンドの変化を比較
クロスセクション	一時点で地域や個人間の事業実施状況とアウトカムの相関関係をみる
一般指標	全国平均値などの一般指標値と比較
マッチング	実施グループとそれに近いグループを選定し比較
実験的手法	無作為割付けにより実施グループと比較グループに分け、その差を比較

４．普及に向けた課題と対応策

（課題）
①意義や必要性に対する「理解不足」、②手法に対する「理解不足」、③手段（ツール）の不足、④基礎的な情報の未整備、資料の不足、⑤評価人材の不足、⑥評価コストの負担と支援の在り方

（対応策：今後１年以内に着手すべき主な取組）
①評価普及のための**シンポジウム開催**と**「評価推進フォーラム」**の立上げ
②**「評価宣言」**と**「ロードマップ」**の作成
③評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
④「変化の理論」「ロジックモデル」等基本ツールの手引書（日本語）整備
⑤海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
⑥評価の担い手の育成を目的とした講習会の実施とモデル事業
⑦評価事例（ﾍﾞｽﾄ・ﾌﾟﾗｸﾃｨｽ）蓄積とピア・レビュー実施による知識共有化